

## パパが産み出す、パパの幸せ、家族の幸せ

「パパの手で作る赤ちゃんのハッピータイム」受講者の声から見えてくることは、パパ同士のちよつとしたきっかけが、パパだけでなく、ママや子どもにも良い変化や影響を生むということだと思います。

本誌では、育休を2度取得した経験があり、多くの夫婦と接してきた塚越さんつかこしに、パパが仕事も育児も両立しながら生活を楽しむ方法を伺いました。

塚越さんは、「父親であることを楽しむ」という考えのもと様々なプロジェクトを展開する、NPO法人ファザリング・ジャパンの理事でもあり、大田区男女平等推進区民会議委員の他、両親学級の講師としても活躍中です。

やり方が分らなくて当たり前  
パパスイッチを始動させよう



講座を通して、パパは育児に自信を持てたように感じます。結局パパたちは、やり方が分からないのです。ママも初めての子どもだったら当然分から

ないのですが、里帰り出産で両親から教わったり、子どもと接する中で覚えていきます。妻に比べて育児の機会が少ない夫は、やり方が分からないから全体像が見えず、指示待ちになってしまふ。会社の新人と同じです。できるようにするためにあきらめずにママがパパに教え続けることが必要でしょう。



まずはやってみることに。最初は、パパが抱っこで子どもに泣かれると、「ママじゃないから泣いたのでは？」と、ママに渡してしまうかもしれません。それが数を重ね、自信がついてくると、お腹が空いているかも？など泣く原因を探し、対処できるようになってきます。繰り返し、たくさん触れることで、ママとのレベル差がだんだん縮まり、抵抗感なくできてきます。

また、パパ同士の情報共有も大事です。ママ同士はわりとすんなりコミュニケーションを取り合いますが、パパには後押しが必要ですね。育児や家事に積極的なイマドキパパに触れてロールモデルがイマドキパパに変わっていく。まずママ同士、子ども同士の仲が良いところをきっかけにして、パパ同士がつながるのがいいでしょうね。

パパがイクメンになれる  
体験とタイミンングは？



パパが育休をとることは自分にも家族にも大きな効果です。育休が難しいなら休日です。

夫が育児をするかどうかについては、男女共同参画の意識や性別役割分業意識の有無が影響していると思われがちですが、実はあまり関係がないようなのです。ある体験が、男性の意識や行動を変えるといわれています。それは、パパと子どもの二人きりの時間で、世話をせざるを得ない体験です。育児を一人で全部できることが分かれると自信がつき、意識や行動が変わっていく。育児・家事の全体像も分かってくると、ママは、パパ一人に任せるのは

不安かもしれませんが、こうした体験が、子どもの父親への信頼にもつながりますので、ぜひ多くの機会を作ってほしいですね。

父親の中には、妻の育児には勝てないし、自分にはできないという人もいます。勝ち負けの判断になりがちですが、子どもにとっては母親だけに育てられるより、父親、保育者、友達など色々な人に関われるほうが成長にはいいわけで、それぞれ特徴があつて当然なのです。自分なりの楽しさを経験し、自分なりのコツをつかみながらやっていくことなのです。

私はよく「母親は門番にならないで」と言っています。夫の育児家事の前に立ちふさがり、手出し・口出しをしたい気持ちやグツと抑えて、ありがとうと感謝の言葉を伝えてほしい。夫をほめることに抵抗のあるママもいるかと思いますが、ほめることで夫がその行動を繰り返すことにつながります。

逆ももちろん言えることで、夫が忙しくて育児ができなければ、妻にねぎらいの言葉をかけるということが大切です。家事育児はできなくても、夫が妻を気遣っている家庭では妻の満足度は高いといわれています。